

12. 連合獣医学研究科

I	連合獣医学研究科研究科の教育目的と特徴	12-2
II	分析項目ごとの水準の判断	12-3
	分析項目 I 教育の実施体制	12-3
	分析項目 II 教育内容	12-5
	分析項目 III 教育方法	12-8
	分析項目 IV 学業の成果	12-10
	分析項目 V 進路・就職の状況	12-13
III	質の向上度の判断	12-14

I 連合獣医学研究科の教育目的と特徴

[教育目的]

本研究科は、獣医学に関する高度な専門知識と優れた応用能力を活かして、社会の多様な方面で活躍できるより高い評価を受ける研究者及び高度職業人を養成することを教育の目標とする。広がる獣医学の学問領域及び関連諸科学の発展と社会の進展に寄与する高級技術者を養成する。また、国際的ニーズへの対応並びに国際協力への貢献に資する能力も養成する。

[特徴]

連合4大学3連携研究機関教員の連携による基礎、病態、応用および臨床からなる広範囲の教育体系をもち、配置大学に縛られない「蛸壺的教育指導体制の打破」を目指し、学生が多くの教員から多様な教育を選択、享受することを可能にしている。また、合宿形式による倫理などの基本的項目を教授する教育や社会人・他大学の学生の教育指導体制を強化するために時間的・位置的な制約を受けないITネットワークを活用したe-learningなどの遠隔教育を充実させている。また、国際協力の一環として、アフガニスタンの獣医系大学の再構築のため、積極的に当該大学からの留学生を受け入れ、大学教員養成を行っている。

[想定する関係者とその期待]

想定する関係者とは、学位取得後に獣医学研究者を目指す在校生・受験生およびその家族、学位取得後に就職する国公私研究所、大学および臨床動物病院の職員である。社会からの要請に従い学位取得者の多くが大学教員および獣医、医学、薬学系などの専門に関連する国公立の研究所に就職している。本研究科に学ぶ学生および本研究科修了者を受け入れる研究所等の関係者は、獣医学における専門領域を極めることにより、関連の研究者や高度獣医療従事者として社会的役割を担う能力の涵養が期待されている。また、社会からは、食の安心・安全、感染症対策、動物医療による社会貢献など、人材の養成を通しての人や動物の健康・福祉に対する貢献への期待が大きい。

Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断

分析項目Ⅰ 教育の実施体制

(1) 観点ごとの分析

観点 基本的組織の編成

(観点に係る状況)

本研究科は、表1-1-1に示すとおり4大学（帯広畜産大学、岩手大学、東京農工大学、岐阜大学）および3連携機関（国立感染症研究所、国立医薬品食品衛生研究所、（独）農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所）の獣医学関連の教員が構成員となっており、獣医学1専攻の4年生博士課程である。学生定員は1学年15名の4学年60名である。一人の学生には配置大学の主指導教員、副指導教員および他大学の教員1名の副指導教員の合計3名からなる複数指導体制を引いている。

獣医学の専門性から、大きく基礎獣医学、病態獣医学、応用獣医学及び臨床獣医学の4つの講座に分けている。この講座は各大学単位ではなく大学間を横断した形での編成となり連合講座の形をとっている。

質の高い獣医師養成を一つの目標とする各構成大学の獣医学・学部教育では、学科目から発展した小講座もしくはそれに該当する単位が責任を負い、教育を実施している。本研究科もこの体制を基盤に「教育研究指導分野」を設置し、複数の教員による指導体制を確立している。

表1-1-2に示すとおり、現在、学生数124名に対し、主指導教員資格者72名、副指導教員資格者31名の計103名が教育研究指導に当たっている。主指導教員1名が平均約2名の学生を指導しており、全体として概ね教員1名が学生1名を指導する配置となっている。また、従来の4大学のみでなく、3国立系研究機関との連携により、研究指導教員数が増加している。

以上のように、本研究科の教育組織編成は大学院教育の基盤となるに足るレベルであり、大学院設置基準を満たしている。

表1-1-1 研究科の構成

課程	専攻等名	専修・講座数等	研究科の組織
博士課程	獣医学専攻	4	帯広畜産大学、岩手大学、東京農工大学、岐阜大学の4大学および国立感染症研究所、国立医薬品食品衛生研究所、（独）農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所の3連携機関から成る

(出典：連合獣医学研究科関係規則等)

表1-1-2 教員配置数

(平成19年5月1日、単位：人)

現 員			設置基準で必要な研究指導教員及び研究指導補助教員		学生数	教員一人あたりの学生数
指導教員数		研究指導補助教員数	指導教員数		124名	1.2名
小計	教授数 (内数)		小計	教授数 (内数)		
72	56	31	4	3	4	

(出典：連合獣医学研究科報 No.17)

観点 教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制

(観点に係る状況)

各構成大学から選出された委員から成る自己評価実施委員会および代議員会が、教育研究活動等の状況について点検及び評価を実施し、教育内容、教育方法の改善を行っている。

実際の取り組みとしては、表1-2-3に示すとおり平成16年度に1年次に合宿方式で開講される獣医学特別講義本講義について学生によるアンケート評価を実施し、その結果を担当教員に提示している。この評価結果とともに各講義のパワーポイント資料を次年度

に送り、毎年修正を加えている。また、必修科目であるにもかかわらず、開講地までの旅費は全く手当されておらず、経済的に苦しい学生から窮状の訴えがあった。代議委員会及び事務本部で検討した結果、平成 18 年度から教員の研究経費から旅費を捻出することになった。

本研究科の特徴である連携を活かした教育を実践するため、他大学・連携研究機関に所属する教員による授業（獣医学特論）に e-Learning システムの導入を代議委員会が中心となり検討してきた。検討の基礎資料とするため、平成 15 及び 16 年度と 2 回にわたり行った試行的授業に対し受講生及び教員による評価アンケートを実施した。その結果、平成 17 年度から正式な授業の方法として本システムの採用が決定し、e-Learning による遠隔大学院授業がスタートしている。現在、IT 委員会が、その運営と改善に当たっている。

自己評価実施委員会により平成 17 年度に本研究科修了生を対象としたアンケート調査を表 1－2－4 に示すとおり実施した。アンケートにおいて本研究科に対して高い満足度を示す結果となった。また、毎年刊行される連合獣医学研究科報に修了者からの寄稿を募っている。表 1－2－5 に示すとおりアンケート調査等の様々な評価結果が検証され、問題把握の上、代議委員会によりその改善が図られる（資料 1－2－1 及び 2）。最近では、表 1－2－5 に示すとおり獣医学特別講義の改善、e-Learning システムの授業への導入、学際領域特別講義担当教員の選定に関する申し合わせの改正等が検討され、実施されている。

平成 17 年度からは、表 1－2－6 に示すとおり大学院教育の充実を図るために、代議委員会が中心となり、FD 活動を実施している。平成 19 年度には、研究科委員会と構成大学で大学院教育の改善に関する FD を 5 回開催し大学院教育の改善に努めており、学生や社会の要請に応じていると考える。

表 1－2－3 授業評価のフィードバックの方法と教育改善への反映

フィードバック方法・教育改善への反映
獣医学特別講義（必須）において学生による授業評価アンケート調査をもとに代議委員会で検討し、実施指針の改正を行った。

（出典：連合獣医学研究科関係規則等）

表 1－2－4 学外関係者からの意見聴取の実施状況

時 期	学外意見聴取対象者	実 施 方 法 ・ 内 容	報 告 書
平成 17 年度	修了生	平成 17 年度に本研究科修了生を対象としたアンケート調査を実施した。アンケートでは高い満足度という結果となった。また、毎年刊行される連合獣医学研究科報に修了者からの寄稿を募っているが、多くの寄稿者が本研究科での教育効果について高く評価していることが分かる。	連合獣医学研究科

（出典：連合獣医学研究科報）

表 1－2－5 評価結果の検討改善体制と改善への反映事例

委員会等名	規 程	審議事項・改善活動	改善への反映事例
代議委員会	代議委員会規程	研究科委員会の委任を受け、組織運営にあたる。 ・学際領域特別講義実施指針の制定 ・獣医学特別講義実施指針の改正 ・中間発表に関する規則の改正	授業評価により実施要項に問題が指摘された学際領域特別講義について、その実施指針を改正した。
自己評価実施委員会	自己評価に関する規定	・自己評価の実施計画 ・自己評価の実施に関すること ・自己評価報告書の作成及び公開に関すること ・実施上の点検及び見直しに関すること	獣医学特別講義の改善 e-Learning の導入 学際領域特別講義の担当教員の選定についての申し合わせ

（出典：連合獣医学研究科関係規則等）

表 1-2-6 FD 活動が教育改善に反映された事例

年度	事 例
16 年度	—
17 年度	大学院教育の実質化と国際化に向け、担当教員の意識改革を図った。
18 年度	各構成大学において実施した FD 講習会により、AIMS-Gifu を利用した e-Learning 遠隔授業の理解が深まり、19 年度の本システム採用予定教員数が 5 名から 10 名に倍増している。 担当教員の大学院教育の実質化と国際化に向けた意識改革を進めた。
19 年度	担当教員の大学院教育の実質化と国際化に向けた意識改革を進めた。

資料 1-2-1 学際領域特別講義に関する取扱いについて、連合獣医学研究科学際領域特別講義指針

資料 1-2-2 連合獣医学研究科獣医学特別講義指針

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

本研究科の教育体制は、4 大学および 3 連携機関の教員 103 名によって 124 名の学生を教育しており、教員 1 人当たりの学生数は約 1 名であり、きめ細かいところまで教育が可能であり、大学院設置基準を満たしている。

教育研究活動等の状況について自己評価実施委員会がアンケート調査等により点検及び評価を実施し、その結果を受け、代議員会が教育内容、教育方法の改善を行っている。その結果、獣医学特別講義における学生への旅費の支給、IT を用いた e-Learning の導入などの改善により、特別講義の充実、他大学・機関所属教員による授業の受講促進、社会人学生に教育機会の増大といった効果に結びついている。また、想定する関係者は、きめ細かい教育体制とアンケート調査によってその体制を改正していることに対して満足している。

以上、アンケート調査等の客観的評価を基に教育内容等を改善することが可能な体制が機能していると判断できる。

分析項目Ⅱ 教育内容

(1) 観点ごとの分析

観点 教育課程の編成

(観点到係る状況)

本研究科は、4 年制博士課程であり、課程修了までに、表 2-1-7 に示す授業科目について、必修科目 18 単位、選択科目 12 単位以上の 30 単位以上を履修し、1～3 年次までの間に主及び副指導教員による獣医学特論Ⅰ（4 単位）、獣医学特別演習Ⅰ・Ⅱ（4 単位）及び獣医学特別実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（6 単位）が必修科目として課されている。1 年次の夏には基礎導入的な合宿式の獣医学特別講義（2 単位）が必修科目として実施される。この講義では、専門に必要な基礎的な教養（倫理、研究計画、論文執筆、プレゼンテーション）を教授する講義、学生による研究計画発表及び高名な研究者による講演が実施される。1・2 年次には、他大学・連携研究機関の教員による学際領域特別講義（4 単位）を必修科目として受講する。他に選択科目として 1～4 年次に獣医学特論Ⅱ・Ⅲ（12 単位以上）が課されている。

1 年次から主及び副指導教員による学位論文に関する専門的な授業（特別演習、特別実験）が課される。3 年次後学期にはそれまでの研究に関する中間発表、4 年次には論文審査と公開発表が実施される。大学院学生にとって重要な研究活動の基盤が、主及び副指導教員による必修科目の受講を通して構築される。これら授業は、専門性により実施形態が若干異なる個別教育とし実施している。また、獣医学特論の質的拡大を図るため、e-Learning による授業が平成 17 年度から開始されている。

以上、質の高い研究論文の作成、研究者に不可欠な基盤的学力の涵養、多様な分野で活躍するための視野の拡大といった本研究科の教育目標に基づいた教育内容となっていると考える。

表2-1-7 授業科目及び単位表

岐阜大学大学院連合獣医学研究科規程

別表(第12条関係) 連合獣医学研究科授業科目及び単位表

連合講座	授業科目	単位数	
基礎獣医学	基礎獣医学特論Ⅰa	2	必修
	基礎獣医学特論Ⅰb	2	必修
	基礎獣医学特論Ⅱa	2	選択
	基礎獣医学特論Ⅱb	2	選択
	基礎獣医学特論Ⅲa	2	選択
	基礎獣医学特論Ⅲb	2	選択
	基礎獣医学特別演習Ⅰ	2	必修
	基礎獣医学特別演習Ⅱ	2	必修
	基礎獣医学特別演習Ⅲ	2	必修
	基礎獣医学特別演習Ⅳ	2	選択
	基礎獣医学特別実験Ⅰ	2	必修
	基礎獣医学特別実験Ⅱ	2	必修
病態獣医学	病態獣医学特論Ⅰa	2	必修
	病態獣医学特論Ⅰb	2	必修
	病態獣医学特論Ⅱa	2	選択
	病態獣医学特論Ⅱb	2	選択
	病態獣医学特論Ⅲa	2	選択
	病態獣医学特論Ⅲb	2	選択
	病態獣医学特別演習Ⅰ	2	必修
	病態獣医学特別演習Ⅱ	2	必修
	病態獣医学特別演習Ⅲ	2	必修
	病態獣医学特別演習Ⅳ	2	選択
	病態獣医学特別実験Ⅰ	2	必修
	病態獣医学特別実験Ⅱ	2	必修
応用獣医学	応用獣医学特論Ⅰa	2	必修
	応用獣医学特論Ⅰb	2	必修
	応用獣医学特論Ⅱa	2	選択
	応用獣医学特論Ⅱb	2	選択
	応用獣医学特論Ⅲa	2	選択
	応用獣医学特論Ⅲb	2	選択
	応用獣医学特別演習Ⅰ	2	必修
	応用獣医学特別演習Ⅱ	2	必修
	応用獣医学特別演習Ⅲ	2	必修
	応用獣医学特別演習Ⅳ	2	選択
	応用獣医学特別実験Ⅰ	2	必修
	応用獣医学特別実験Ⅱ	2	必修
臨床獣医学	臨床獣医学特論Ⅰa	2	必修
	臨床獣医学特論Ⅰb	2	必修
	臨床獣医学特論Ⅱa	2	選択
	臨床獣医学特論Ⅱb	2	選択
	臨床獣医学特論Ⅲa	2	選択
	臨床獣医学特論Ⅲb	2	選択
	臨床獣医学特別演習Ⅰ	2	必修
	臨床獣医学特別演習Ⅱ	2	必修
	臨床獣医学特別演習Ⅲ	2	必修
	臨床獣医学特別演習Ⅳ	2	選択
	臨床獣医学特別実験Ⅰ	2	必修
	臨床獣医学特別実験Ⅱ	2	必修
共 通	獣医学特別講義	2	必修
	学際領域特別講義Ⅰ	1	必修
	学際領域特別講義Ⅱ	1	必修

備 考

1 各特論Ⅰa及びⅠbは、各研究単位で行うゼミ、抄読会、学会発表等を読み替えることができる。

2 各特別演習は、学位論文に係わる研究活動に関する授業を示す。

3 各特別実験は、学位論文に関する実験を示す。

4 特別実験は、学位論文に直接関係しない研究等を読み替えることができる。

5 修了要件30単位のうち、所属講座特論Ⅰ 4単位、所属講座特別演習6単位、所属講座特別実験4単位、獣医学特別講義2単位、学際領域特別講義2単位の合計18単位が必須。

(注)各特別演習Ⅳは、平成19年度秋季入学者から適用する。

(出典：連合獣医学研究科関係規則等)

観点 学生や社会からの要請への対応

(観点に係る状況)

1、2年次に開講される学際領域特別講義について配置校以外で受けたいと希望する社会人学生には、勤務地近くの大学において受講できるように対応している。さらに、遠隔にいる社会人学生や他大学・機関の教員の授業の受講に便宜を図るために、自宅や研究室で受講できる e-Learning による授業が平成 17 年度から開始した。

合宿式で実施される獣医学特別講義（必須科目）においては、授業後アンケート調査から開講地までの旅費の支給を望む学生の声が多いことが判明した。実際に、本研究科の構成大学は東日本全域に広がっているために、旅費について学生間の負担に差があること、また負担が非常に大きい学生がいることが明らかとなった。そこで、平成 18 年度より、教員配分の研究経費から学生用旅費を捻出し、この必修科目に対して経済的支援を行うこととした。

表 2-2-8 に示すとおり社会からは獣医学に関する高度な専門知識と優れた応用能力を活かして、社会の多様な方面で活躍できる研究者及び高度職業人の養成が求められている。これまでの本研究科修了者の就職先は、表 2-2-9 に示すとおり大学教員、国公私の研究機関に約 80% が就職していることから、学生や社会の要請に対して十分対応していると考えられる。

このことにより、前掲表 1-2-4 の修了後のアンケート調査においても高い満足度の結果が得られており、本研究科では、常に社会や学生の要請に応え、IT 環境を活用し、不断に問題把握とその解決策を図り、授業法改善を実施するなどの対応を進めている。

表 2-2-8 研究科の教育目的と教育課程の編成

教育目的（養成しようとする人物像）	教育課程の構成	授与する学位
獣医学に関する高度な専門知識と優れた応用能力を涵養し、国際的、独創的かつ先駆的な研究を遂行し得る研究者と多様な国際及び国内分野で活躍できる高級技術者を養成することを目的としています。	専門科目及び共通科目から成り、体系的な履修ができる編成としている。	博士（獣医学）

（出典：連合獣医学研究科関係規則等）

表 2-2-9 就職先状況（平成 19 年 3 月までの修了者）

就職先等	修了生数	割合(%)
大学等教育・研究職	101	43.54
民間研究所等研究職	41	17.67
国公立研究所研究職	42	18.1
官公庁	7	3.02
民間動物病院	20	8.62
民間会社	12	5.17
その他	9	3.88
計	232	100

（出典：連合獣医学研究科報平成 19 年度版）

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準にある

(判断理由)

本研究科は、4年生博士課程であり、課程修了までに、必修科目 18 単位、選択科目 12 単位以上の 30 単位以上を履修しなければならない。学生は、1～3 年次までの間に主及び副指導教員による獣医学特論Ⅰ(4 単位)、獣医学特別演習Ⅰ・Ⅱ(4 単位)及び獣医学特別実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(6 単位)が必修科目として課されているが、学年進行的に単位修得することにより、研究者としての基盤形成から応用力の涵養までの教育が体系化されている。また、学位取得に関しては、配置大学以外の教員も副指導教員とする複数指導体制をひいており、中間報告会により中間評価と指導が実施される。これらが機能し、多くの学生は期限内で学位を取得している。

学際領域特別講義において、社会人学生に対しては勤務地近くで受講を認めており、獣医学特論では、時間と場所を選ばない e-Learning の授業科目を増加させ、学生の要請に応じている。また、修了生の約 80%が大学教員、国公私の研究機関に就職していることから、学生や産業界だけでなく、高度な専門知識と優れた応用能力をもった研究者や高度職業人の養成という広く社会からの要請に応える状況であると判断できる。

分析項目Ⅲ 教育方法**(1) 観点ごとの分析****観点 授業形態の組合せと学習指導法の工夫**

(観点到に係る状況)

本研究科では、課程修了までに、必修科目 18 単位、選択科目 12 単位以上の 30 単位以上を履修しなければならない。この中には学生には、1～3 年次までの間に主及び副指導教員による獣医学特論、獣医学特別演習及び獣医学特別実験が必修科目として課されている。獣医学特論は主及び副指導教員によるゼミ形式の少人数教育であり、各教員の特色のある教育を実践している。また、獣医学特別演習および獣医学特別実験も主及び副指導教員による個別形式の実験指導である。また、前掲表 2-1-7 に示すとおり斉一教育として獣医学特別講義及び学際領域特別講義が実施される。獣医学特別講義では、専門に必要な基礎的な教養(倫理、研究計画、論文執筆、プレゼンテーション)を教授する講義、学生による研究計画発表及び著名なる研究者の講演が行われる。また、他大学・連携研究機関の教員による学際領域特別講義を必修科目として開講しており、社会人学生には、勤務先や仕事の関係で配置大学での講義を受けることが出来ない場合には、他大学で受講することを認めている。

また、遠隔地の社会人学生や他大学・機関に所属する教員の講義の受講に便宜を図るために、表 3-1-10 に示すとおり自宅や研究室で受講できる e-Learning による授業が平成 17 年度から開始している。

このように、大学院生の基盤を形成する斉一教育・研究能力を高める個別教育、視野を広げる応用力を高める教育がバランス良く組みあわせられ、IT を活用した遠隔授業などの指導法に関する工夫がなされており、学生、産業界および社会の要請に応じていると考える。

表 3-1-10 e-Learning による授業

平成 19 年度後期 岐阜大学連合獣医学研究科 e-Learning による授業について
本研究科では、学生が他大学・連携機関に所属する教員による授業の受講を容易にすることを目的に、平成 17 年度より選択科目の一部に e-Learning システム「AIMS-Gifu」を利用しています。今年度は、「AIMS-Gifu」により 10 授業が開講されます。本授業はチュートリアル（個別）教育を基本とするため、受講に制限が加わる場合があります。受講希望者は授業担当教員より受講の承諾を得ることが必要です。下記に受講にあたっての注意点と開講までのスケジュールを示します。 【受講にあたっての注意点】 1. インターネットと電子メールを使うことができる環境が必要である。 2. 選択科目のため、原則として 2 年次以降の受講となる。 3. 授業の目的あるいは方法によっては受講人数が制限されることがある。 4. 使用言語については、授業担当者に希望を伝え、相談の上、決定する。 【開講までのスケジュール】 ～10 月 26 日（金） 受講希望者は授業担当教員に電子メールで連絡し、担当教員から受講の承諾を得たうえで受講届けを事務所に提出する。登録のため、下記の e-Learning 担当教員まで、メールで連絡する。 10 月 29 日（月）～11 月 2 日（金） 「AIMS-Gifu」への受講者の登録 11 月 12 日（月）開講予定 担当教員より受講学生各自にスケジュール等の連絡が入る。 【問い合わせ】e-Learning 担当教員 杉山 誠（e-mail: sugiyama@gifu-u.ac.jp）

（出典：連合獣医学研究科シラバス）

観点 主体的な学習を促す取組

（観点に係る状況）

本研究科の特徴である、学生 1 人に対して他大学の教員を含めた 3 人の複数教員による教育・研究指導を行っており、配置大学の教員のみならず他大学の教員にも積極的に教えることが出来る体制となっている。また、各研究室では、学生個々の専用の机が設置されており、各机には情報収集が可能なようにランケーブルが接続可能にしてある。

前掲表 3-1-10 に示すとおり、遠隔にいる学生が受講をしやすいことを主目的に採用した e-Learning による授業形態は自学自習を促す結果を生じている。これは 2 年間試行的授業をアンケート調査等により検証した結果から明らかとなった。このような授業の拡大のため、平成 17 年度から、各大学において研究科長及び専任教員による FD 講習会を開催してきた。平成 19 年秋入学者からシラバスを充実・更新し、教育目標及び単位の明確化、教育の体系化、および成績の基準、評価を明確にして、学生の学習到達目標を明確化し主体的な学習を促すようにし、学生、産業界および社会の要請に応えていると判断できる。

（2）分析項目の水準及びその判断理由

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

本研究科では、課程修了までに、必修科目 18 単位、選択科目 12 単位以上の 30 単位以上が課されている。この中には、研究者としての基盤を形成する齊一教育（獣医学特別講義）、専門性を高める個別教育（獣医学特論Ⅰ、特別演習、特別実験）、視野を広げ応用力を高める教育（獣医学特論Ⅱ・Ⅲ、学際領域特別講義）が学年進行的に体系化されて配置されている。また、学習環境の整備や個別教育、e-Learning 授業の採用等により自発的な学習を促すように工夫もなされている。さらに、獣医学特別講義や中間報告会などにおける複数教員による研究指導および研究科長あるいは専任教員の研究の進捗状況の把握も行い、研究科全体での学生指導が行われている。

社会人入学者は、時間と場所を自由に選べる e-Learning 授業の充実が主体的な学習が可能であり、この授業の充実が社会人学生が休暇もとらずに授業に参加できるので雇用主にも好評である。

以上、設定された教育目標をもとに、入学から学位取得に至る効果的なコースワークが確立されていることから、本研究科では学生や産業界だけでなく、広く社会が要請する良好な教育方法が実施されていると判断できる。

分析項目Ⅳ 学業の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 学生が身に付けた学力や資質・能力

(観点に係る状況)

本研究科では獣医学に関する優れた応用能力および社会の多様な方面で活躍できるより高い評価を受ける研究能力を身に付けることを人材養成目標としている。そのため、獣医学に関する高度な専門知識はもとより獣医学の学問領域及び関連諸科学の発展と社会の進展に寄与する能力を身に付ける必要がある。その結果、このような教育目標のもとで表4-1-11に示すとおり、多くの学生が学会賞受賞をしている。これまで5名の学生が学術振興会・特別研究員に採用されている。本研究科修了生が、本研究科の推薦により、権威ある井上研究奨励賞を平成17年、18年と2年連続で受賞している。これまで、優れた研究成果により1年及び半年間の在学短縮により学位を取得した者は、それぞれ3名及び6名の計9名である。

また、表4-1-12に示すとおりに、留年率は低く、また、留年しても半年あるいは1年で修了し、学位を取得している。また、表4-1-13に示すとおり学位取得率も高く、学位取得者の学業成績評価はすべて「優」であった。

したがって、学生が身に付けた学力や資質・能力に関して学生や産業界だけでなく、広く社会の要請に込えていると判断できる。

表4-1-11 各種コンペティション等の受賞者数状況

入学年度 (卒業年度)	卒業生数 修了者数	コンペティション等の名称及び受賞者数
H13(H16卒)	22人	
H14(H17卒)	13人	第141回日本獣医学会学術集会奨励賞(プレナリーセッション) 1人 井上研究奨励賞 1人
H15(H18卒)	21人	第1回日本獣医内科学アカデミーインターズー学術奨励賞 1人 学長表彰 1人 第143回日本獣医学会学術集会奨励賞(プレナリーセッション) 2人 日本獣医繁殖学優秀発表賞 1人 4 th inter. Tree Squirrel Coll. 1人 井上研究奨励賞 1人
H16(H19卒)	18人	第145回日本獣医学会学術集会奨励賞(プレナリーセッション) 1人 The 21 st Inter. Sym. Neuro. Motil. Outstanding Poster Awards 1人

表4-1-12 各段階毎の目標到達度(進級・留年率)

16年度	17年度	18年度	19年度
段階:修了時 留年率14%	段階:修了時 留年率41%	段階:修了時 留年率16%	段階:修了時 留年率22%

表4-1-13 学位取得者の成績評価分布
博士・博士後期課程

入学年度 (修了年度)	入学人数 (人)	学位取得		学位取得者の成績評価分布表(%)				
		学位取得者数(人)	取得率(%)	優	良	可	不可	計
H13(H16卒)	28	22	78.6	100	0	0	0	100
H14(H17卒)	22	13	59.1	100	0	0	0	100
H15(H18卒)	25	21	84.0	100	0	0	0	100
H16(H19卒)	23	17	73.9	100	0	0	0	100

観点 学業の成果に関する学生の評価

(観点に係る状況)

1 年次の全ての学生に受講が義務づけられている獣医学特別講義に関するアンケート調査を表 4-2-14 に示すとおり、継続的に実施している。特に平成 18 年度には、全学生を対象とした本講義に対する調査を実施、自己評価実施委員会において検証を行った。その結果、全体的な印象として大変良かったあるいは良かったと全員の学生が回答した。平成 19 年度では、表 4-2-14 に示すとおり 96%の学生が大変良かったあるいは良かったと回答している。また平成 17 年度には、表 4-2-15 に示すとおり修了生を対象としたアンケート調査を実施している。この調査によると、「当時の研究環境に満足していた」もしくは「ある程度満足していた」と回答した者が 91%、「不満である」が 3%であった。さらに、指導教員に対する満足度も 97%であり、不満と回答した修了者はいなかった。したがって、学生や関係者の要請に応じていると判断できる。

表 4-2-14 授業評価の実施状況

- (1) 平成 18 年度岐阜大学大学院連合獣医学研究科特別講義に関するアンケート (抜粋)
参加学生 29 名 回答者数 20 名 (69%)
時 期 平成 18 年 8 月 22 日 (火) ~ 26 日 (土) 場 所 「北海道立畜産試験場」
A. 特別講義の全体的な印象はどうでしたか？
1. 大変良かった 11 名 (55%)
2. 良かった 9 名 (45%)
3. どちらでもない 0 名 (0%)
4. 良くなかった 0 名 (0%)
5. その他 () 0 名 (0%)
- (2) 平成 19 年度岐阜大学大学院連合獣医学研究科特別講義に関するアンケート (抜粋)
参加学生 36 名 回答者数 26 名 (72%)
時 期 平成 19 年 8 月 22 日 (水) ~ 26 日 (日)
場 所 「国立オリンピック記念青少年総合センター」
A. 特別講義の全体的な印象はどうでしたか？
6. 大変良かった 7 名 (27%)
7. 良かった 18 名 (69%)
8. どちらでもない 1 名 (4%)
9. 良くなかった 0 名 (0%)
10. その他 () 0 名 (0%)

表 4-2-15 修了生アンケートと調査結果 (平成 17 年度実施分)

修了生に向けたアンケート調査 (平成 17 年 8 月)

修了者 190 人のうち住所不明者を除く 155 人へ送付し、71 人から回答を得た。(回答率 45.8%)

1. あなたについてお尋ねします。Enquiries about your course of study.

(1) 学位授与年/月日 When did you finish your doctoral course?

年 (Year) 、 月 (Month)

平成	6	7	8	9	10	11		12		13	14	15	16		17	計
月	3	3	3	3	3	3	9	3	9	3	3	3	3	9	3	
人数	5	4	5	4	4	4	1	4	1	9	7	6	8	1	8	71
%	7	6	7	6	6	6	1	6	1	13	10	8	11	1	11	100

(2) 配置大学・連携機関 Which member university or institute did you belong to?

- ① 帯広 Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine
② 岩手 Iwate University
③ 東京農工 Tokyo University of Agriculture and Technology
④ 岐阜 Gifu University
⑤ 感染研 National Institute of Infectious Diseases

①	13 人	18%
②	16	23
③	23	32
④	19	27
⑤	0	0

(3) 連合講座 Which major course did you belong to?

- ① 基礎 Basic Veterinary Science
② 病態 Pathogenetic Veterinary Science
③ 応用 Applied Veterinary Science
④ 臨床 Clinical Veterinary Science

①	14 人	20%
②	18	25
③	16	23
④	23	32

2. あなたの本研究科時代についてお尋ねします。Concerning your research at the UGSVS.

(1) 研究環境には満足していましたか？

Were you satisfied with the research environment?

- ① 満足している Satisfied
- ② ある程度満足している Somewhat satisfied
- ③ 不満である Not satisfied
- ④ 分からない Uncertain

①	33 人	46%
②	32	45
③	2	3
④	4	6

(2) 指導教員の研究指導に満足していましたか？

Were you satisfied with the guidance of your advisory professors?

- ① 満足している Satisfied
- ② ある程度満足している Somewhat satisfied
- ③ 不満である Not satisfied
- ④ 分からない Uncertain

①	49 人	69%
②	20	28
③	0	0
④	2	3

(2-1)「不満である」とした人は、その理由を書いて下さい。

If you chose 'Not satisfied', please give reason(s).

(な し)

(3) 現在の仕事や生活に学位や当時の勉強は役に立っていますか？

Has the pursuance of a doctoral degree made any contributions to your present work or life?

- ① 役に立っている Useful
- ② 関係ない Not useful
- ③ 分からない Uncertain

①	62 人	87%
②	4	6
③	5	7

(4) あなたは後輩に本研究科に入学し、学位を取得することを勧めますか？

Do you encourage younger students to study in the UGSVS?

- ① はい Yes
- ② いいえ No
- ③ 分からない Uncertain

①	51 人	72%
②	3	4
③	17	24

(4-1)「いいえ」と答えた人にお聞きします。その理由は何ですか？

If you chose 'No', what are your reason(s)?

- ① 学位は役に立たない Obtaining a doctoral degree was not useful
- ② 指導教員の指導が悪い Poor guidance of advisory professors
- ③ 講義が面白くない Poor lectures
- ④ 設備が悪い Poor facilities and equipment
- ⑤ 研究費が少ない Poor research expenses
- ⑥ 人間関係が難しい Difficulty in making good human relations
- ⑦ 就職が難しい Difficulty in getting a good job
- ⑧ その他 Others ()

①	人	%
②		
③	1	33
④		
⑤		
⑥		
⑦	2	67
⑧		

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準を上回る

(判断理由)

多くの学会賞及び奨励賞の受賞、学術振興会・特別研究員の採用、在学期間短縮による学位修得もみられ、効果的な教育研究指導がなされていると考えられた。また、アンケート調査から、学生や修了生が授業や教育効果に対して高い満足度をもっていることが確認できた。

これまで、優れた研究成果により1年及び半年間の在学短縮により学位を取得した者は、それぞれ3名及び6名の計9名である。入学者の留年率は低く、また、留年しても半年あるいは1年で修了し、学位を取得している。また、学位取得率も高く、学位取得者の学業成績評価はすべて「優」であった。本研究科が推薦した修了者が井上研究奨励賞を平成17年、18年と2年連続で受賞していることは、本修了生の資質の高さが評価されたものである。

以上、本研究科の学生が身に付けた学力・資質や能力に対して高い評価を受けていると考えられ、学生・修了生の満足度が高いことから、学生や産業界だけでなく、広く社会の要請に応えるような本研究科の学業に関する成果が高いレベルにあると判断できる。

分析項目 V 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 卒業(修了)後の進路の状況

(観点に係る状況)

本研究科では、獣医学に関する高度な専門知識と優れた応用能力を活かして、独創的かつ先駆的な研究を遂行しうる研究者及び社会の多様な方面で活躍できる高級技術者を養成することを目標としている。これに対して本研究科修了生は、前掲表 2-2-9 に示すとおり 44%が大学等教育・研究職、18%が民間研究所等研究職、18%が国公立研究所研究職、3%が官公庁、9%が民間動物病院、5%が民間会社に進んでいる。研究職もしくは官公庁に進んだ学生が全体の 83%となっている。研究職へ進んだ修了生が平成 18 年度は (80%) は平成 17 年度 (71%) と比べて高くなっている。したがって、学生や産業界の要請に応えていると考えられる。

観点 関係者からの評価

(観点に係る状況)

平成 17 年度に前掲表 4-2-15 に示すとおり本研究科修了生を対象としたアンケート調査を実施した。調査結果から本研究科に対して高い満足度をもっていることが明らかとなった。平成 17 年度以後の修了生のアンケートにおいて、研究環境では 90%以上が満足あるいはある程度満足と答えており、研究指導では 97%が満足あるいはある程度満足と答えている。後輩を本研究科に勧めるかとの質問に否定したのはわずか 4%であった。本研究科での教育が今の仕事に役立っているかという質問に対して 87%が役に立っていると回答している。また、毎年刊行される連合獣医学研究科報に掲載された修了者からの寄稿では、全ての修了者が本研究科での教育効果について肯定的な評価している。なお、修了生 10 人以上が就職している職場がないために就職先へのアンケートは行っていない。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準を上回る

(判断理由)

本研究科の目標は、獣医学を基盤とした独創的かつ専門的な研究を遂行しうる研究者及び社会の多様な方面で活躍できる高級技術者を養成し、獣医学及び関連諸科学の発展と社会の進展に寄与することである。大学教員、国公立・民間研究機関研究職、官公庁に進んだ者は、本研究科の期待する養成像と考えられる。全体の 8 割程度がこのような進路に進んでおり、修了者を対象としたアンケート調査から本研究科の教育の成果や効果が進路先に反映していると考えられる。民間動物病院や民間会社に進んだ残りの学生も本研究科で培った能力を生かし、獣医学等の発展や社会の進展に寄与している可能性がある。また、本研究科の修了生に対するアンケート調査から研究環境への満足度は高く、大学院で培った能力が現在の仕事に活かしている結果が得られ、職場関係者から期待とおりの評価を受けている。

以上を総合的にみると、研究職に多くの修了者が就職していることは本研究科の教育目標に沿った進路状況であり、アンケート結果からも学生や産業界だけでなく関係者の評価も高いことから、広く社会の要請に応えていると判断できる。

Ⅲ 質の向上度の判断

①事例1「修了後の就職」(分析項目Ⅴ)

(質の向上があったと判断する取組)

本研究科は獣医学に関する高度な専門知識と優れた応用能力を活かして、独創的かつ先駆的な研究を遂行しうる研究者及び社会の多様な方面で活躍できる高級技術者を養成するための教育を行っている。その結果として、修了生は、44%が大学等教育・研究職、18%が民間研究所等研究職、18%が国公立研究所研究職、3%が官公庁、9%が民間動物病院、5%が民間会社と修了生の8割が教育・研究職に進んでいる。研究職へ進んだ修了生が平成18年度は(80%)は17年度(71%)と比べて高くなっている。

②事例2「学業の成果」(分析項目Ⅳ)

(質の向上があったと判断する取組)

これまで多くの学生が学会賞を受賞している。また、5名の学生が学術振興会・特別研究員に採用されている。優れた研究成果により1年及び半年間の在学短縮により学位を取得した者は、それぞれ3名及び6名の計9名である。本研究科修了生が、本研究科の推薦により、権威ある井上研究奨励賞を平成17年、18年と2年連続で受賞している。

学際領域特別講義に関する取扱いについて

(平成 16 年 4 月 1 日制定)

- 1 学際領域特別講義は、主として出張講義として実施する。
- 2 学際領域特別講義は、原則として3年次までに6講義以上受講するものとする。
- 3 学際領域特別講義の単位の認定については、代議委員会細則に関する申合せ第4に定める代議委員(教務・厚生担当)が行うものとする。
- 4 学際領域特別講義は、各構成法人において、企画運営する。
- 5 学際領域特別講義の受講に際しては、配置大学以外の構成法人において受講したものも単位としてみなす。
- 6 学際領域特別講義の履修届は、各構成法人の代議委員がとりまとめの上、連合獣医学研究科長へ提出するものとする。

附 則

この取扱いは、平成16年4月1日から実施する。

附 則

この改正は、平成17年9月16日から実施する。

連合獣医学研究科 学際領域特別講義 指針

(平成 18 年 8 月 22 日第 5 回代議委員会承認)

科目名 : 学際領域特別講義 I 及び II (各1単位)

授業目標 : 獣医学領域に関する視野の拡大

講義形態 : 実施大学以外の3大学及び連携機関の教員(補助教員を除く。)による出張講義

開 講 : 1～ 3年次 必修2単位(原則として6月実施)
3講義で1単位とする。

1講義;90分

担当・単位認定:実施大学代議委員会委員(勤務・厚生担当)

会 場 : 各構成大学

講 師 : 他3大学に連携機関を加えた4枠のうち3枠から講師を各1名選択する

翌年は、選択されなかった枠から1名の講師を必ず選択する。

講義内容:授業目標に沿った教員の専門性を活かした内容

実施スケジュール:

各大学において前年度3月中に講師の内容と日程の調整を行う。

内定の講師と実施日程を事務に連絡する。

4月開催の第1回代議委員会において各大学における実施案を承認する。

実施予定を各大学で掲示し、さらに全教員及び学生へメールにより配信する。

当日、担当代議委員会委員は出席を把握し、単位を認定する。

その他:配置大学以外の大学での受講も可能である。

配置大学以外で受講の場合、実施担当代議委員会委員に連絡の上、了承を得る。

受講講義数にかかわらず、1年間に1単位を超えて単位認定されない。

(出典:連合獣医学研究科関係規則等)

連合獣医学研究科獣医学特別講義指針

(平成17年1月24日第10回代議委員会承認)

(平成18年11月17日改正第8回代議委員会承認)

開講:1年次必修2単位

目的:導入的な授業

- ・ 研究に関する基本的事項の修得
- ・ 研究遂行上の問題点の整理
- ・ 教員等からの助言
- ・ 教員,同級生等との交流

実施担当:従来通り構成大学で持ち回りとする。

開講会場:利便性等を考慮し,実施担当大学が決定する。会場までの学生旅費を本研究科負担とする。

開催会場選定にあたり,下記の点を特に考慮する。

- ・ 100名程度が受講できる講義室と代議委員会等のための会議室
- ・ 宗教等の問題により大浴場での入浴が困難な学生のための浴室・シャワー室等の設備
- ・ 宗教及び健康上の理由からの食事に対する配慮
- ・ 小中高校生が同宿する場合,未成年に対する配慮

日程:1年次夏季休業中(4泊5日)

日程の設定にあたり,下記の点を考慮する。

- ・ 事務作業の関係から,8月中が望ましい(9月第1週まで)。
- ・ 初日に定例の代議委員会等の会議を開催する。

内容:アンケートから,これまでに実施してきた「大学院生にとって基本的な事項に関する講義」と「研究計画発表」は特別講義に必要な項目であることが明らかとなった。他に,研究哲学,研究への熱意等を伝えるような「高名な研究者による講演」や交流を図るための「レクリエーション・懇親会」も重要である。そこで,講義全体とこの4項目について検討を行った。

1. 全体

- ・ 担当大学代議委員会委員が中心となり,全代議委員会委員が運営にあたる。
- ・ 代議委員会が受託学生の成績評価を行い,専任教員が成績を提出する。
- ・ 教員の参加を多くする。
- ・ 教員と学生とのコミュニケーションを図るため,最初に教員の紹介を行う。
- ・ スライドは英語で作成する。

2. 大学院生にとって基本的な事項に関する講義

- ・ 大学院の導入のための授業と位置付ける。
- ・ 研究活動をするにあたり最低限必要な事項にテーマを絞る。

テーマ!研究計画法及び倫理

発表(オーラルとポスター)法及び質疑応答法

論文執筆法

- ・ 連獣教員が講義する。
- ・ 1講義1時間程度とする。
- ・ 綿密な打ち合わせを行い,年による内容的な差を少なくする。講義のパワーポイントファイルを次年度に送り,毎年修正を加えていく。

3. 研究計画発表

- ・ 1人25分(15分発表,10分討議)程度のプログラムが望ましい。
- ・ 座長を第1副指導教員もしくは関連の教員とする。
- ・ 1時間半に一度,休憩を入れる。
- ・ 他分野の学生でも理解できるような発表となるように指導する。
- ・ 1年次春季入学生:研究の背景,目的,計画を中心に発表し,卒論等の結果は背景に加

える程度とする。

- ・ 1年次秋季入学生等:1年次春季入学生の発表と同様であるが,入学してから得た結果を若干入れても良い。
- ・ 様々な分野の研究に触れることは重要であるので, 1グループが望ましい。
- ・ 時間的に難しい場合は2グループに分ける。
- ・ 教員の参加を多くする。
- ・ 英語でのプレゼンテーションを認める。
- ・ 発表要旨のタイトルに英語表記を加える。
- ・ 同分野の学生に質問を促す等により, 学生間の討議を活発にさせる。
- ・ 各自の発表を分かりやすく示したポスター (A3版1枚あるいはA4版2枚)を準備し, 講義期間中, 掲示する。パワーポイント原稿を利用しても良いが, 文字, 図等の大きさに注意し, 分かりやすいポスターを作成する。

4. 高名な研究者による講演

- ・ 研究において最前線で活躍し, かつ学生に刺激を与えうる外部の高名な研究者1名に講演を依頼する。
- ・ 学生との交流を図るため, 講演者に宿泊してもらうようにする。

5. レクリエーション・懇親会

- ・ 初日にウエルカムパーティーを実施する。
- ・ 期間中の円滑なコミュニケーションを図るため, プログラムの2日目午後にレクリエーションを配置する。
- ・ 交流を図る目的から, 集国で行うレクリエーションが望ましい。
- ・ 最終日の前夜に懇親会を開催する。
- ・ 宗教的な配慮も必要である。

なお, 本指針は, 獣医学特別講義の今後の方向性を示したものである。会場等の条件によっては, 全てを実行できない場合も想定される。担当校が本指針の精神を充分理解したうえ, 変更することは可能である。また, 今後も授業の評価を実施し, より良い授業に向けて改善を推進する必要がある。

(出典: 連合獣医学研究科関係規則等)